



オリーブの木キャンペーン報告 第5期 植樹シーズン 2006 - 2007

はじめに

2007年3月、オリーブの木キャンペーン - Keep Hope Alive (希望を持ち続けてもらうために) は第5期の植樹シーズン(2006-2007)を終了しました。今期はキャンペーンにとって、もうひとつの大きな成功を得たシーズンであり、オリーブの木が引き抜かれた畑、イスラエルの入植者による攻撃を受けている畑、あるいは、イスラエル当局による接収に脅かされている畑に50,000本のオリーブを植えるという主要目標の達成に向けて積極的なステップを踏み出したシーズンです。

キャンペーンは多くの困難に直面してきました。首尾よく克服したものもあれば、不幸にも極めて深刻な事態を生じたものもありました。農業従事者の数が多いことと彼らのニーズに優先順位をつけることが難しいことが、特にベツレヘム地区で大きな問題でした。ベツレヘム地区では土地をその所有者や農業従事者から分離するために壁が建設されており、土地全体の45%以上がイスラエルに併合される可能性があります。多くの農業従事者とその家族は農場に近づくことが出来ず、壁の裏側に閉じ込められた状態にあると感じています。

パレスチナ中央統計局によればベツレヘム地区の壁は71のパレスチナ人のコミュニティや村の土地に建設されつつあります。これを念頭に、キャンペーンは、これらのうち13のコミュニティに属する畑や農業従事者に対してオリーブの木を提供することに成功しました。

実行

植樹シーズンのための実行プロセスは、2006年11月の初めに、植樹する場所についてより多くの情報を集め、農業従事者にキャンペーンについて説明し、また具体的に何処に木を植えるかを決めるために農地を訪問することから始まりました。農業従事者は植樹のために畑を準備するように、また直面するであろう問題とそれらがどのように解決できるかをキャンペーンと分担するようアドバイスを受けました。フェンスの活用、灌漑システム対策や肥料など、農業従事者が畑を養生する上での手助けとなる他の重要な情報と併せて、厳密にどんな種類のオリーブの木がキャンペーンで提供されるかが農業従事者に説明されました。

農地訪問に続いて、次の事項を含む キャンペーンが設けた基準に従って畑が選定されました。

- ・ その畑で引き抜かれた木の数
- ・ イスラエル占領地における非合法のイスラエル人入植者の膨張による農地接収の脅威の程度
- ・ 壁からの距離およびヨルダン川西岸のパレスチナ人の土地での不法な分離(アパルトヘイト)壁の建設による土地接収の脅威の程度
- ・ 畑や木の世話をする農業従事者の意志と努力
- ・ 畑の広さに比較してオリーブの木がどれだけ入手できるかという観点からみたときのキャンペーンの実行能力

ヨルダン川西岸のほかの地区、すなわちヘブロン、サルフィットおよびジェニンの畑の選定作業については、農業従事者とキャンペーンの間の連絡、および選定された畑に関する情報をキャンペーンに提供する、現地の農業従事者によって行われました。

ガザ地区でのオリーブの木キャンペーン

昨シーズンのキャンペーンでガザ地区に初めて植樹が行われましたが、2006年6月のガザ地区に対する非人間的なイスラエルの攻撃によって、残念ながら植えられた木のおよそ半数が破壊されました。今年、オリーブの木キャンペーンは、ガザ北部のペイト・ハノウンと呼ばれる別の場所に木を植えることを決定しました。畑と農業従事者の選定作業は農業従事者委員組合(UAWC)と共同で行われ、7つの畑に820本のオリーブを植樹することで合意しました。

植樹

パレスチナではオリーブの植樹シーズンは、通常、12月の第3週に始まり、3月まで(雨季の間)続きます。オリーブの木キャンペーンは1月の初めに木の配付を開始し、2007年3月末までキャンペーンを続けました。この過程で、ガザの北部地区に加えて、ヨルダン川西岸のパレスチナ側被占領地域の4つの異なった地区にある23の村やコミュニティで、101の農家が所有する102の畑に、7,430本の贈られたオリーブの木が植えられました。

下表はヨルダン川西岸およびガザ地区でのオリーブの木キャンペーンによって贈られた木の配付状況を示す。

地区の名称	村 / コミュニティの名称	畑	農家	贈られた木
ベツレヘム	ワド・フキン	9	9	500
	ナハリン	16	16	830
	フサン	2	2	160
	アル・カデル	22	21	1,455
	ビエト・ファジャル	11	11	510
	ビエト・エスカリア	3	3	200
	エル・ジャバ	2	2	150
	バティール	2	2	100
	イルタス	2	2	155
	ワド・ラハール	1	1	60
	エル・フルデス	3	3	180
	キサソ	2	2	300
	ビエト・サホール	2	2	120
	ビエト・ジャラ	1	1	60
ベツレヘム市	4	4	350	
ヘブロン	サファ	1	1	120
	ワド・セイル	4	4	400
ジェニン	アセラ・エル・シャマリエヤ	1	1	240
ガザ北部	ビエト・ハノウン	7	7	820
サルフィット	エル・ザオウヤ	3	3	270
	ラファト	2	2	200
	ハレス	1	1	150
	ベドヤ	1	1	100
計		102	101	7,430

現地植樹デー

2007年1月24日、環境教育センターの協力の下に、ベツレヘム東部のキサソ村で現地植樹デーが行なわれました。アイダ難民キャンプの国連学校の少女20人が、農業従事者アーメド・アリ・ワイダの所有する畑に200本の贈られた木を植えるのを支援するために駆けつけました。

国際植樹デー

第1回国際植樹デーは、2月3日にベツレヘム地区のアイン・アル・クアシス - アル・カデルで行なわれました。JAIのスタッフに加えて、50人以上の国際ボランティアが地元の農業従事者やボランティアに合流し、300本のオリーブの木を植えました。当日、植樹を行なった畑は、ナダウィ・サレムサ、イマドノムハンマド・ムスタファ・サラ、およびアドナン・マモウド・サラが所有しています。植樹デーは、アイン・アル・クアシスの農業従事者への支援に加えて、アル・カデルの農業従事者たちが耐えている危機とアル・カデルの地への不法入植の侵略的かつ急激な拡大から彼らの土地を守るための闘いを際立たせることを目的としていました。

第2回国際植樹デーは、2007年3月3日にベツレヘム市北部のカリタス・ロードで行なわれました。畑はジョニー・アティークによって所有されており、彼の土地に壁が建設されてからは、この畑が彼とその家族に残されたすべてでした。当日植樹された木の贈り主の代表者を含めて、40人以上の国際ボランティアがJAIのスタッフのみならず地元のボランティアや農業従事者の家族と一緒に参加し、150本のオリーブの木を植えました。参加者たちは、ジョニー・アティークの家族が余儀なくされてきた不公平かつ正義に反する現実、即ち、パレスチナ人の農地に不法な分離壁/障壁の建設を続けることによって、イスラエルがパレスチナ人に強制している生活のひとつの事例について知ることになりました。

オリーブの木キャンペーンのニュースレター

二つのニュースレターが、植樹シーズンの開始時点と終了時点、即ち、2005年12月15日と2006年3月15日に発行されました。

関連事項

2007年2月9日 金曜日 に アイン・アル・クアシスに植えられた14本の木がその地域に居住している入植者によって引き抜かれ、盗まれました。さらに、オリーブの木キャンペーンの恩恵を受ける農業従事者のひとりであるムハンマド・サハダ・サラが同じ入植者に襲われました。木は再び植え直され、また、野生動物や入植者が畑に入ってオリーブの木を破壊し続けるのを防止することを期待して、土地はフェンスで囲まれる見込みです。

オリーブの木の寄付者

オリーブの木キャンペーンはすべての寄付者に謝意を表します。このキャンペーンの支援者からの寄付金が、この植樹シーズンに多大な成果をあげ得た主要な要因です。Keep Hope Alive に対して大きなコミットメントを示してくれたすべての人々に重ねて御礼を申し上げます。

前述のとおり、今シーズン 2006 - 2007 年に植えられた木の総本数は、8 か国 1,322 人の後援者から贈られた 7,429(+1) 本です。下表に各国から贈られた木の本数を示します。

国名	デンマーク	イタリア	日本	オランダ	スウェーデン	スイス	英国	米国	その他	計
木の本数	1,175	3	647	2,433	18	89	2,251	802	11	7,429

それぞれの木が何処に植えられたかについての情報は、当該情報がオンラインで共有される時点で要請に応じて提供される見込みです。

直接的および間接的な受益者

1. オリーブの木が植えられた畑の農業従事者、土地所有者および家族。私たちが収集したデータによれば、これらの受益者は 101 家族です。

2. オリーブの苗木の養育者。苗木は彼らから購入されました。
3. 作業員、輸送業者、農業従事者および植樹シーズンにキャンペーンの奉仕活動の提供に参加した多数の個人。
4. 植樹した畑があるコミュニティで、特に入植地に近接した地域。入植地に可能な限り近接した畑に木を植えるので、背後にある畑を保護する上で効果があります。
5. JAI。友人、協力者および寄付者の地域ネットワーク、国際ネットワークの拡大により、メリットを受けます。

直面した問題および困難

植樹シーズンを通じてオリーブの木キャンペーンはいくつかの困難および問題に直面しました。主なものは次のとおりです。

1. キャンペーンの過去における成功が地域レベルでの肯定的な評価を形成する上で役立ちました。これが農業従事者の数をかなり増やすことにつながりましたが、キャンペーンは、植樹が必要なすべての畑を対象とすることはできませんでした。
2. イスラエルの軍事的支配が、ひとつの地域内の輸送に対して課している継続的な制約や、パレスチナ人の管轄区域間の移動に対して要求している非常識な手続きや処置が、移動をほとんど不可能にさせ、木を輸送し植樹することを極めて困難にしました。
3. 植樹に対するイスラエルの直接的妨害を第 1 回国際植樹デーの期間中に何度か受けました。妨害は兵士がベツレヘムやヘブロンの入植者のいずれかによるものです。
4. 今シーズンは、贈られた木の本数は増加しましたが、後援者の数と後援者が所属する国の数は減少しました。
5. JAI の本部との調整や協力の欠乏により、キャンペーンのために発動された多くのイニシアティブを最新の状態に維持することが一般的に困難であったばかりでなく、それを知ることさえ難しい状況でした。

2007 年度のおおまかな計画

- ・ 2007 年はヨルダン川西岸およびガザ地区に対するイスラエルの軍事的占領が、40 年目を迎えることは良く知られています。オリーブの木キャンペーンは次回の植樹シーズンに植えられるオリーブの木の数を増やすための活動計画を作成しつつあります。私たちは過去の 5 回のシーズンにおけるキャンペーンを構成した一人ひとりが、そしてすべての人が、自由、平和および正義に対するパレスチナ人の真剣な要求を際立たせようとするオリーブの木キャンペーンの重要な戦力となることを願っています。
- ・ キャンペーンを世界各地にまで行き渡らせるためのマーケティング戦略を立案する。

近々の行事

毎年恒例のオリーブ収穫プログラム が 2007 年 10 月の最終週から始まる見込みです。